

令和7年度 学校評価

1 学校目標

学校教育目標	重点目標（中・長期的な目標）
1 豊かな教養と幅広い知識を養い、確かな技術と学力を育む。	1 人づくり 「環境」「技術」「キャリア」を柱とする実践的な教育をとおして、「創造力」「技術力」「人間力」を培い、多面的な資質と実践的な職業能力を備えた人づくりを推進する。
2 健やかな身体と豊かな情操を培う。	2 学校づくり 三学科が連携・協働し、互いに切磋琢磨し、知・徳・体のバランスのとれた教育をとおして、生徒一人ひとりが明るく楽しく安心して学べる学校づくりを推進する。
3 社会の発展に貢献できる創造力と実践力を培う。	3 地域づくり 生徒・保護者・地域との共感を深め、地域を支える人づくり・地域を共につくる学校づくりをとおして、持続可能な佐久平の未来創生につながる地域づくりに貢献する。
4 地域の環境を守り育てる心を養う。	
今年度の重点目標	
	校是を実現するためのグランドデザイン・3つの方針に基づいて、生徒一人ひとりの未来像（キャリア形成）を意識した教育課程の実現に取り組む。（キャリア教育・全体）
	探求的な学び・対話的な学び・ICTの活用に取り組むことで授業改善を図り、授業の魅力づくりと生徒一人ひとりが主体的に学力の向上と進路実現を目指すことを支援する。（学習指導・進路指導）
	生徒と教職員の健康と命を守り、いじめや暴力、非違行為のない、安全で安心して学べる学校づくりのため、明るい挨拶や規範意識の確立、職員全員による生徒の健康状態の見守りと施設衛生の保持等、お互いの人格をリスペクトする人間関係を築く力を育てる。（生きる力を育む生徒指導）
	地域連携・協働など地域に開かれた教育活動を積極的に実践・発信し、佐総高の信頼とイメージの向上に努める。（社会に開かれた教育課程）

評価A:目標通り B:ほぼ目標通り C:改善を要する

総合評価	
A	
評価	成果と課題
B	生徒個々の進路や将来の目標を実現するための教育課程とキャリア教育について検討し、編成・見直しをすることができた。
A	担当者を中心に「探究さく दौर」(総合的な探究の時間)のブラッシュアップにより、より魅力的な授業として改善できた。また、ICT機器や学習ソフトの活用を促進した。
A	安全、安心な学校づくりのため、事案の早期発見・早期解決を目指し、情報共有を密に行い、協働して取り組むことができた。安全意識の向上を図るための様々な校内研修を例年以上に実施した。
A	地域、企業、小中学校、企業と数多くの教育活動を連携しながら実施することができた。生徒は地域に学び、地域を知る、よい機会となった。その成果をメディアを通して広く発信

2 教育活動

対象	担当部署	評価項目	評価の観点	
学習指導	教育課程 学習指導委員会	①「多様な学習ニーズに対応した柔軟で質の高い学び」の運用体制の構築 ②学習評価の研究 ③特色化と総合的な探究の時間	①「多様な学習ニーズに対応した柔軟で質の高い学び」の運用体制が構築できたか。 ②各教科での評価の課題を学校全体で共有し、研究を進めることができたか。 ③特色化を今後の教育課程にどう反映させていくか、総合的な探究の時間を主テーマに研究を進めることができたか。	
	農業科	農業科全体	実験実習を通して知識・技能の習得および学校間交流を通じた地域連携	・実験実習や体験を通して知識・技能を深めることが出来たか。 ・小学校等の交流活動を通して学習の理解を深め、コミュニケーション能力を養うことができたか。
		食料マネジメント科	植物栽培・動物飼育管理から加工、販売までの知識と技能の習得	・野菜を中心とした栽培管理や加工販売の知識と技能の習得ができたか。 ・産業動物の飼育管理や乳肉製品の加工販売の知識と技能の習得ができたか。
		生物サービス科	植物資源・動物資源を活用した動植物介在活動の実践	・植物の特性・栽培の知識・技術を習得し、園芸福祉・環境デザイン・フラワーアレンジ等の植物資源の活用が適切にできたか。 ・動物介在活動等のヒューマンサービス、動物との共存に対応できる知識と技術を活用した産業動物飼育管理や地域交流活動ができたか。
		食農クリエイト科	食の安全・安心教育の実践 地域資源の活用・地域連携を通じた学校PR	・農産物加工品の品質向上や衛生管理の徹底など、食の安全・安心に配慮することができたか。 ・地域食材を利用した6次産業化や地域との連携に取り組む、佐総高をアピールできたか。
		工業科全体	インターンシップを通じて地元企業・事業所との連携	就業体験する工業科2年生全員がこの体験により職業観・社会観の醸成を図る中で、就業先の特色を生かした将来に繋がる連携を深め、進めることができたか。
	工業科	機械システム科	体験に基づく、理解しやすい授業実践	・授業（実験・実習）で理解を深め、専門知識の定着を図ることができたか。 ・生徒が各種技能検定に積極的に取り組めたか。
		電気情報科	体験を通じた、わかる授業の実践	座学で学んだ知識を実習を通して定着できたか。電気的的特性や回路結線法などの基本的な知識技能を習得できたか。プログラミング等の実習で実践的な力を習得できたか。
		浅間キャンパス連携	共通科目や研究への取り組み	・学校設定教科「探究さく दौर」は充実できたか。 ・課題研究などの連携は推進されたか。

評価	成果と課題
B	①「多様な学習ニーズに対応した柔軟で質の高い学び」の校内運用体制を整えることができた。実際の運用はなかったが、オンライン授業への対応に対する設備の充実が必要である。 ②各教科の学習評価の工夫を共有することはできたが、より発展的な学習評価について議論を進めることはできなかった。 ③「探究さく दौर」の教育課程上の位置づけ及び学習評価について改善を図ることができた。「探究さく दौर」の授業担当の選出や指導内容の充実も継続的な課題である。
A	・実験実習を通して知識・技能を深めることができた。また、地域の協力や連携を行った研究も増えてきている。3科の課題研究発表会では内容のある発表を行い、保護者や地域の中学生に学びの発信を行うことが出来た。 ・小学校交流は交流数は以前よりやや減少したが様々な形態での交流を行い、生徒の学習を深め、コミュニケーション能力を養うことが出来た。
A	・1年間、甚さ寒さにも負けず、熱心に実習に取り組む事ができた。仲間と助け合い、率先して自分がやるべきことを考え行動できた。 ・交流活動は、地元の小学校との動植物とふれあいを通じて交流、児童への面見がよくなり親睦が深められた。海外の農業研修生との交流もできコミュニケーション能力が向上した。
A	・学習してきた植物の特性・栽培の知識・技術を身に付けていることができた。また、地元小学校との交流会では、動物の飼育方法や触れ合い方について生徒が小学生に教える活動を行い、コミュニケーション力を養うことができた。
A	・地域と協働して地域食材や佐総生産物・加工品を利用した新たな商品開発を行い、6次産業化やマーケティングの実践を通じて学ぶことができた。開発した商品は地域イベントや農産物販売会で販売し、メディア等での発信を通して佐総の学習活動をアピールすることができた。 ・地元小学校とビオトープの生き物観察、捨てられてしまうもの有効利用について等の交流を行った。戸塚酒造との酒米栽培交流など資源を活用した地域連携ができた。フナ養殖・販売は、メディア発信により広くアピールすることができた。
B	昨年より受入企業が若干増え職種の幅が広がった。地元49社の支援を受けてインターンシップを実施し、地元企業、ものづくり産業への理解、職業観、勤労観を深めることができた。事後学習として企業を巡る、報告会、懇談会を実施し、概ね生徒の取り組みや設備などに対して評価をいただいた。生徒個々に、体験や報告会を通してキャリアアップが図れた。
B	【成果】 ・技能向上と資格取得：「ものづくりマイスター」の指導を課題研究やコンテスト指導へ効果的に活用し、随時資格(旋盤2級等)の取得や、全体の技能レベル向上を実現できた。 【課題】 ・個に応じた指導：生徒間の技能習熟度の差を縮めるため、個別の指導支援を充実させ、全体の底上げを図る。
B	座学の内容を実習で確認し、理解を深める体系的な学習ができた。資格取得やものづくりコンテストなどに挑戦することで、専門科目の興味・関心につながることができた。課題研究では多くの生徒が意欲的に研究に取り組めた。
B	・「探究さく दौर」は3年目の実施で、生徒のプレゼン能力の向上に寄与している反面、地域課題に対する思考力の向上には依然として課題が残る。 ・学科連携による課題研究は実現できなかった。

創造実践科	創造実践科全体	自己を理解し、様々な学習を通して自己肯定感、コミュニケーション能力向上を図る。	・生徒が自身について考える機会や、他者との協働、外部講師による授業などの支援ができたか。	B	・全学年で探究的な学びに取り組み、自らの考えをまとめ、伝える取り組みができた。 ・外部講師による授業は複数回行ったが、さらに多くの人たちにご協力いただける体制づくりを目指したい。
	生物環境系列	農業学習を通して自己肯定感や自己有用感、コミュニケーション能力を向上させる。	座学・実習の両面から評価項目に記載した事項を意識した授業や行事等を企画・実施できたか。	A	・座学、実習の両面から評価項目に挙げた内容を意識した授業を展開することができた。 ・外部連携等も行うなかで、コミュニケーション能力や接
	デザイン系列	デザイン学習を通して一連の流れを体験し、デザイン力の定着を支援する。	・デザインの流れを体験できる課題設定をし、デザイン力定着の支援ができたか。 ・外部への発表の場を設けることができたか。	A	・課題に取り組むにあたり、他の科目での既習内容を確認したり、コンセプト設定からプレゼンまで取り組む課題設定をしたりできた。 ・外部施設でデザイン展を行い、また新たにギャラリートークを設定することができた。
	文理医療系列	基礎学力向上及び多様な学びのための支援	・基礎学力を身に付けるための適切な支援ができたか。 ・学びの幅を広げるための支援ができたか。	B	・粘り強く、丁寧な指導を行うことができた。 ・少人数でもなるべく授業を開講し、生徒の学びを支援することができた。
進路指導	進学指導	進学希望実現のための支援	進学実現のために個々の課題を解決する支援することができたか。 ・補習授業の実施や小論文・面接指導等の支援をすることができたか。	B	全職員で面接指導等に当たった。希望者には、個別指導、放課後補習や模試を行った。
	就職指導	就職希望実現のための支援	・希望する就職実現のための支援をすることができたか。 ・企業や職安との連携を深め、情報提供する支援をすることができたか。	B	求人票管理システム「Handy進路指導室」を導入し2年目、生徒保護者への情報提供の支援をより進められた。職員や支援員による就職希望者の面談、企業と連携しての応募前見学などを実施できた。
	キャリア教育	職業理解を深めるための支援	・職業理解を深め目的意識を持って学習活動に取り組む支援ができたか。 ・地域社会を支える人材として自己実現を図る支援ができたか。	B	インターンシップ、進路ガイダンス等を活用して職業理解を進めた。
生徒指導	①基本的な生活習慣の確立 ②学習活動に集中できる学校環境の整備 ③地域から信頼・期待される生徒の育成 ④他の分掌との連携	・すすんで挨拶をすることや時間を守ることなど、基本的な生活習慣が確立するよう指導できたか。 ・いじめや暴力を許さない雰囲気づくりができたか。 ・規範意識を持ちルールとマナーを守らせる指導ができたか。 ・厚生係、いじめ対策委員会等と連携できたか。	B	①朝、あいさつ運動を実施した。(6月、9月、12月) ②校内巡視や定期的に頭髪・服装検査を行い、学校生活に集中できる環境を促した。 ③地域住民からの連絡が数件あり、その都度対応した。 ④厚生部やいじめ対策委員会と連携を取り、学校全体で対応することができた。	
	生徒会	①より良い学校づくり ②地域連携 ③両キャンパス間連携	生徒会活動を通して ①より良い学校づくりができたか。 ②地域との交流ができたか。 ③両キャンパスの交流ができたか。	B	文化祭では、一般公開の制限を解除したことで、多くの来場者に来校してもらったことができた。来年度の文化祭テーマについて、両キャンパスの役員で協力して原案を考え、両キャンパスでの投票で決定することができた。 本年度から、学校のInstagramを開発し、学校の様子や魅力発信に取り組んできた。 赤い羽根共同募金に生徒会役員が中心となり、協力す学校保健計画に沿って保健管理・指導、保健行事が実施できた。新型コロナウイルス感染症第5類移行に伴う各種対応、対応マニュアルの改訂、各種行事の感染予防対策など感染拡大防止全般に注力できた。年間2,500件を超える保健室処置件数、年間1,000件を超える保健室相談件数があったが、必要時、迅速かつ緊密な校内・校外連携をはかることができた。
厚生	保健	感染症対策や保健行事の計画・実施と丁寧な健康相談を行い、必要時は校内や専門機関との連携を行う。	感染症対策や保健行事の運営、健康相談、必要時の連携ができたか。	B	生徒情報ファイルを作成し閲覧可能にすることで、得られた情報を全職員で共有できた。支援が必要な生徒に関して、外部の支援機関と連携することができた。支援が必要な生徒の対応方法、支援方法について職員へ情報提供に努めた。
	特別支援教育	アンテナを高くすることで生徒状況をいち早く把握し、各学年、養護教諭、生徒指導と相互に連携し合いながら支援の体制を整えていく。	得られた情報を全職員で共有できたか。連携を取りながら支援体制を整えられたか。	B	4月の新入生オリエンテーションでSOSの出し方教育を実施。6月・11月の学校生活アンケート、聞き取りなどを通じて不適応などの早期発見に努めることが出来たか。いじめもしくはそれと思われる事象について迅速な対応ができたか。
	教育相談	不適応や問題行動への対応とともに、日常的な相談や生徒理解を重視する。	アンケート、聞き取りを通じて不適応などの早期発見に努めることが出来たか。いじめもしくはそれと思われる事象について迅速な対応ができたか。	B	いじめ予防のための人権講話を7月に全校で実施した。1年では、4月にスマホ・ネット教室を行い、自分で情報を適切に判断し、活用する力を身につけることを学び、10月に薬物乱用防止教室、性教育講話を聴き学習をした。2年では、突然の事故に遭遇した際の迅速な対応ができるように、AED講習会に参加した。3年では、ライフデザイン教育で思春期に必要な健康管理と、将来の人生設計について学んだ。
	人権平和教育	学校、学年、各教科で人権・平和問題に取り組む。1年はSNSの扱い方。2年は修学旅行を通して、3年は進路選択を通して学ぶ。	多様性が重視されるなかでお互いを尊重できるようになったか。それに向けて取り組めたか。	B	

### 3 学校運営

対象	担当部署	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
学校運営		両キャンパスにまたがる様々な諸課題について検討し、両キャンパスの連携を推進する。	各キャンパスから出された課題に対し、適切に対応できたか。	A	学校運営委員会を中心に諸課題について検討をすすめることができた。研究成果発表会の開催方法、文化祭の開催時期など各キャンパス間で合意形成を図ることができ、キャンパス間連携が向上した。
清掃美化		日常の清掃美化活動を通じて、自らの学校生活を快適で充実したものにするため、校内の学習環境を整える。	活動を通じて、基本的な生活習慣の形成・勤務の意義や奉仕の精神の育成、集団の一員としての自覚を深め、責任感を育成することができたか。	B	校舎自体の老朽化に伴い、トイレなどの施設の汚れが目立ってきている。改修などの大掛かりな取り組みが必要であると思われる。
教務	授業公開	授業公開(年2回)などの機会を生かし、佐総高校の魅力を発信する。	中学生だけでなく、地域に本校の存在意義が認識されたか。	B	計画通り年2回(春・秋)の公開授業を開催することができた。秋においては部活動の見学を行なったこともできた。多くの中学生や保護者を始め、一部地域の方も来校するなど広く授業の様子を公開することができた。
	情報管理	①円滑に校務がはかれるように、セキュリティを確保しつつ、ICT機器の有効な活用を図る。 ②学校Webページからの情報発信を充実させる。	①グループウェアを活用して、校務の効率化が図れたか。また、利用率が向上したか。 ②学校行事などを掲載することにより、本校の魅力を伝えられたか。	B	①グループウェアの導入初年度のため年度当初より使い方の運用面において混乱が見られたが利用方法の浸透につれ混乱も収束し業務改善に繋がった。 ②各種行事、生徒の諸活動の発信に努め昨年度比へ更新機会を増やした。また次年度より新たに運用するWebページの構築に努めた。
渉外	PTA	生徒の学習活動が円滑に行われるよう、各学科、各キャンパス間の保護者、職員の風通しを良くし、行事等を協力して行う。	PTA総会、学年・学級PTA、研修会、役員会などのPTA行事がスムーズに運営でき、充実した会になったか。また、それらの行事を通じて、十分な交流ができたか。	B	PTA総会・学年学級PTA・研修会・役員会などの運営はPTA会長はじめ、多くのPTA会員の協力で一年間の活動を進めることができた。特にPTA行事の「LEDアクリルオブジェの製作」は親子での参加もあり、大変好評であった。今後の課題としてPTA総会や学年学級PTAの参加数を増やしたい。
	同窓会	正副会長・理事・監事の新体制での運営および体制づくり。	正副会長・理事・監事の体制での運営および体制づくりができたか。	B	新体制で新規格として、同窓会を考える会を立ち上げ、農産市に参加するなどの同窓会のPR活動を行い、運営および体制づくりの基礎固めができた。
危機管理	非違行為防止	教職員の非行防止に向けた取り組みを実施する。	非違行為防止に関する研修などを充実させることができたか。	A	定期的にコンプライアンス研修を実施した。全職員の規範意識の向上につながったと考える。
	個人情報保護	様々な場面で個人情報が適切に管理するために研修を行う。	個人情報を適切に扱うことができたか。	A	個人情報の取り扱いに関わる研修を職員全員が受講し個人情報の保護意識を高めた。
働き方改革		職員意識の向上と業務改善について検討する。	意識改革、業務改善が進んだか。	A	ICTの活用を図り、会議時間の短縮に努めた。勤務時間の割り振り、有給休暇の利用を促進し、意識改革を進めた。